

ちくごのいいものをギュッとコンパクトに詰め込んだ情報紙









SECOND

2023 vol.126 FREE

06

情報紙 セカンド
発行人/石橋雅子
〒830-0003 久留米市東櫛原町2066
TEL.090-5749-9964
MAIL info@new-second.com
https://www.new-second.com
http://www.facebook.com/new.second.kurume
second_freepaper



<p>牡羊座 喜び、幸せに満ち、愛が始まる時。心をオープンに☆元気に活動、運動するとエネルギーアップ! ラッキーストーン ブラッドストーン</p> 	<p>牡牛座 学びがプラスになる☆美しいもの、魅力あるものにたくさん触れよう。考えすぎず直感に従ってOK♪ ラッキーストーン アメジスト</p> 	<p>双子座 物事の良い所をたくさん見つけて☆周囲とのバランスも考えよう。自分を愛し、創造性を発揮。殻を破る! ラッキーストーン ローズクォーツ</p> 	<p>蟹座 自分の軸を確認。人生の主導権は自分☆リラックスしながらやり方を見直す。結果に満足できる時。 ラッキーストーン トルマリン クォーツ</p> 
<p>獅子座 かっこいい選択をする事が大切。焦らず、何が出来るか考え、落ち着いて準備しよう。状況は改善していく♪ ラッキーストーン マラカイト</p> 	<p>乙女座 新しいスタート! 瞑想し、体調を整えよう。新鮮な毎日を通す工夫を☆自分と仲良く。手放しも大事。 ラッキーストーン クリソコラ</p> 	<p>天秤座 あなたの強さ、素晴らしさをもっと思い出そう☆整理整頓してリフレッシュ! 軽やかに。よい方向へ♪ ラッキーストーン セレナイト</p> 	<p>蠍座 努力の結果がでる。応援してくれる人が増える。具体的な計画を。明るく勇気を出してさらに前進☆ ラッキーストーン タイガーアイ</p> 
<p>射手座 経済的な変化。新しいやり方を取り入れ、力が発揮できる。自制心をもつ。想定外のラッキーがあるかも☆ ラッキーストーン パイライト</p> 	<p>山羊座 健康管理に目を向けよう☆自分を大切に。心と身体にエネルギーを充電。感情に素直になろう。自分らしく! ラッキーストーン レインボー オブシディアン</p> 	<p>水瓶座 大きな視野を持ちながら、瞬間瞬間をもっと楽しむ。ワクワク喜びを感じよう! チャレンジ、冒険してみたら♪ ラッキーストーン アポフィライト</p> 	<p>魚座 コツコツ慎重にいこう! 長いスパンで物事を考えて決断☆なりたて姿を明るく思い描こう。自分をほめて。 ラッキーストーン レピドライト</p> 



鉄板焼で 気分上げ上げ 皆、晴れ晴れ!!

鉄板食堂 みなはれ 2周年記念



MINAHARE

ラーメン外伝 118 幻の脚本 ⑦ 香月 均史

前号の続き

「その利那、聞き慣れた鈍い音がしたと思いきや、戸板をしっかりと掴んでいた男の手は突然、ジャンケンのパリの形で大きく開いたまま震えだした。さらに鈍い音が続き、そのパリの震える手は、大へナとしおれながら、隙間から消えていった。そしてうめき声。やがて遠ざかる奇声と共に男の気配が消えた。昇が戻ったのだ。光は飛び出し、昇に抱きついた。昇も嘉子も服は裂け、敗残兵のような姿になっていた。

*「光」このときの父ちゃんは金剛力士像ではなく、破れた福助のシャツを着たスーパーマンでした。

8 嵐のあと

翌朝、台風、過の秋空は青く澄みわたる、遠い背振山の色づきはじめて木々までも近くに見える。

昇は朝から屋台の修理に余念がない。嘉子も修理の手伝いで忙しい。きなはいつもの子守奉公の姿で次男を背負い、屋台の復旧作業を眺めている。

そこへ山村秀が自転車ですてきた。山村の職業は木工である。山村は屋台を見回しながら言った。「またハデにやられたねえ。ほら、現場で余った板切れ。」「すまんねママちゃん」山村は抱えもある板切れを荷台から降ろしながら続けた。「ハデにやられたといえは、のぼちゃん、アンタにいつもハデにやられたる男がおるやろ」「ああ、きな、ここに付きまとう変態チンピラか。」「そう、その男のことやけど、ちよとよかね?」

山村は後ろを振り返って人を呼んだ。「おい」すると板扉の陰から、恐るおそる例のチンピラが現れた。顔には殴られた青あざがまだ新しい。昇は瞬時に反応した。「貴様! まだ懲らんか!」

山村は昇を制しながら言った。「ちよと待つてん、のぼちゃん。まず俺の話は聞いてやてん。

さっき工事現場で、台風に吹き飛ばされた弾丸ラーメンの話はしながら、この板切れをまとめようとした。そこにたまたまこの兄ちゃんが通りかかって、俺に話しかけて来たつたい。」

男は昇をチラチラ見ながら緊張している。山村は促した。「あとは兄ちゃんが自分で話ばせんね」山村は自転車を降り、仕事に戻った。

長屋の中男はおどおどしながら話しはじめた。「お俺、櫛野といひます。櫛野端午」

「申の団子?」昇は笑ったが、櫛野は意を決したように言った。「きなこの兄です」

昇と嘉子は顔を見合わせた。そして同時に後ろのきなに振り返った。

ジロキチは竹の籠をせわしくかじっている。正座した櫛野の膝元には、口の欠けた湯飲みのお茶が置かれていた。「きなちゃんには家族はおらんて聞いたらばごらん」嘉子は次男に哺乳瓶の乳を与えながら、櫛野に訊いた。「はい、俺と二人兄妹です。ぼつてん、このとおりドマダレの兄貴やけん、おらんも同然です」

きなは嘉子の横でうつむいている。「きなこの本当の名は美奈子、ちいいます。俺が端午の節句に生まれたけん、こんな名がつけてられて、そううちアダ名がダンゴになつて、団子の妹やからキナコつち、周りから呼ばれることになりました」「そうね」嘉子は櫛野の話にうなずきながら、昇を睨んだ。「アンタ、こん兄ちゃんはチカンじゃなかなね。それはアンタは勝手に決めつけて、会う度にデヤしてなごらん!」

昇は気まずい顔で櫛野に言った。「そりやスマンやつたの」

昇は人に頭を下げるのが苦手だ。この空気から逃げるようにせき払いしながら質問した。「オホん、で、ダンゴ、お前らの父ちゃん母ちゃんは何?」

「はい、オヤジは兵隊にとられたまま帰つて来んやつたです。母ちゃんは何?」

次号へ続く

バックナンバー tahonet